

1. これまでの検討経過について

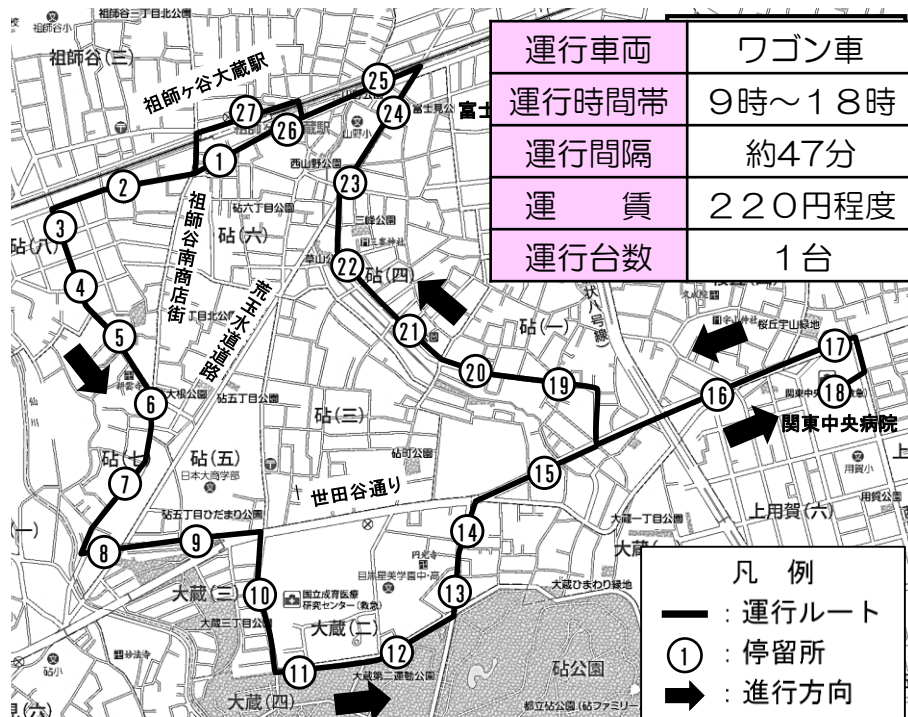
昨年度の検討状況の振り返り

昨年度までの検討状況①

- 「公共交通不便地域対策に向けた勉強会」を計6回開催
- 「砧公共交通協議会」を計2回開催
- 「地域公共交通会議」を計2回開催
- 「交通管理者協議（警察等）」を計8回
- 下図2ルートに対する「需要予測アンケート」の実施
- 運行ルート②（案）で調整を進める旨を確認

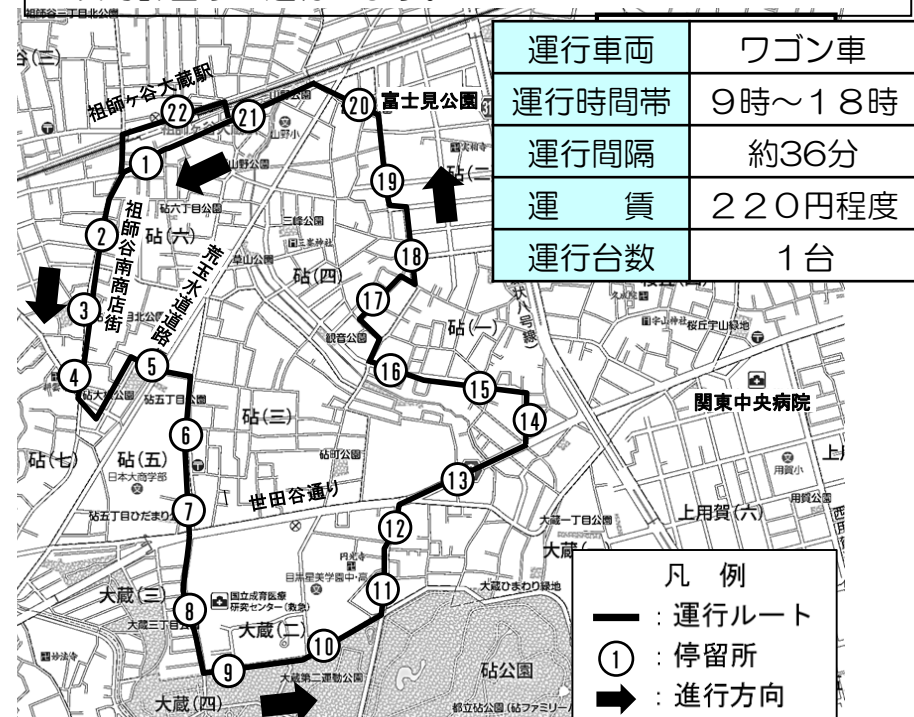
関東中央病院にアクセスする運行ルート①(案)

- 祖師ヶ谷大蔵駅を出発した後、大蔵団地、成育医療研究センター、関東中央病院を經由して祖師ヶ谷大蔵駅に戻ります。
- 反時計回りで運行します。



関東中央病院にアクセスしない運行ルート②(案)

- 祖師ヶ谷大蔵駅を出発した後、祖師ヶ谷南商店街、大蔵団地、成育医療研究センターを經由して祖師ヶ谷大蔵駅に戻ります。なお、関東中央病院にはアクセスしません。
- 反時計回りで運行します。



昨年度までの検討状況③

【主な課題】

課題① 運行ルート上の通学路の安全対策

課題② 持続性のある運行とするための収支改善

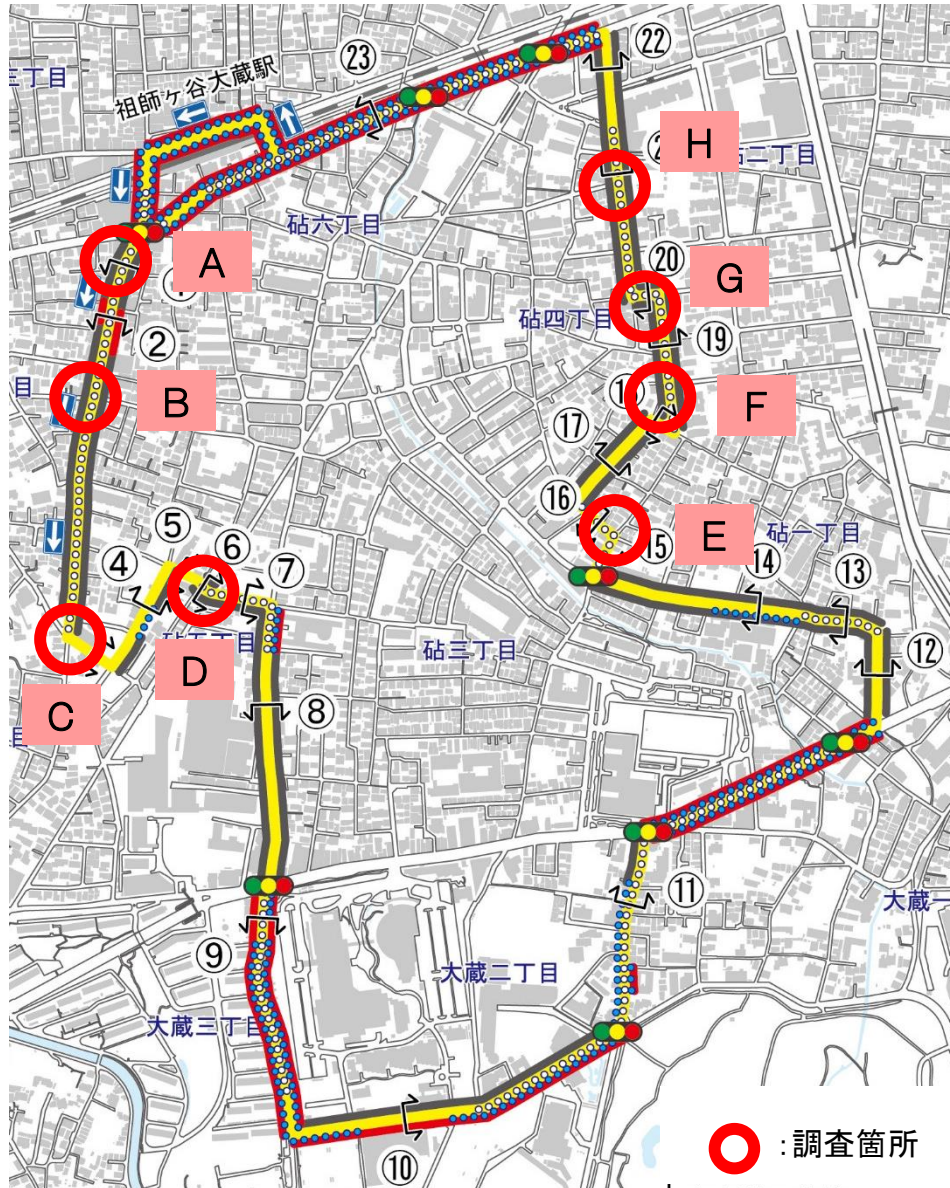
課題への対応状況と新たな課題

課題①に対する対応状況(安全対策の提案)

●対策案1 (ハード面)

対象箇所	対策案	対策イメージ	対象箇所	対策イメージ	対策イメージ
通学路	①路面標示シートの設置		運行車両	⑤車両へのLED表示板の設置	 【表示例】 乗降中 通学路通行中
	②通学路標識(電柱)の設置				
車両制限令 抵触区間	③乗務員の運転マニュアルの作成	※対策案2参照	<h2>●対策案2 (ソフト面)</h2> <p>運行ルート上の具体的な注意箇所及びその通行方法や、車両すれ違い方法を盛り込んだ運転マニュアルを作成し、安全運転を徹底する。</p>		
	④カーブミラーの設置				

課題①に対する対応状況(通学路の通行量調査)



調査日①

実施箇所：A、B、C、D

日時：平成31年1月24日(木)
14:30~16:00

調査日②

実施箇所：E、F、G、H

日時：平成31年2月5日(火)
14:30~16:00

課題①に対して新たに生じている課題

- 昨今のバスによる事故等を踏まえた通学路に関する交通管理者からの指摘
 - ガードパイプ等で歩車分離されていない通学路は、通行児童数に関わらず、運行ルートとして適切ではない。
 - 通学時間帯は運行時間から外す、あるいは通学路に指定されていないルートとすることが望ましい。
 - 通学時間帯に運行するのであれば、安全対策に加えて、ガードパイプの設置や地域住民による見守り等の対策が必要。

課題②に対する対応状況

- 区の支援について検討
- 見積り精査等の経費削減の検討

課題②に対して新たに生じている課題

■ 持続性のある運行収支の確立

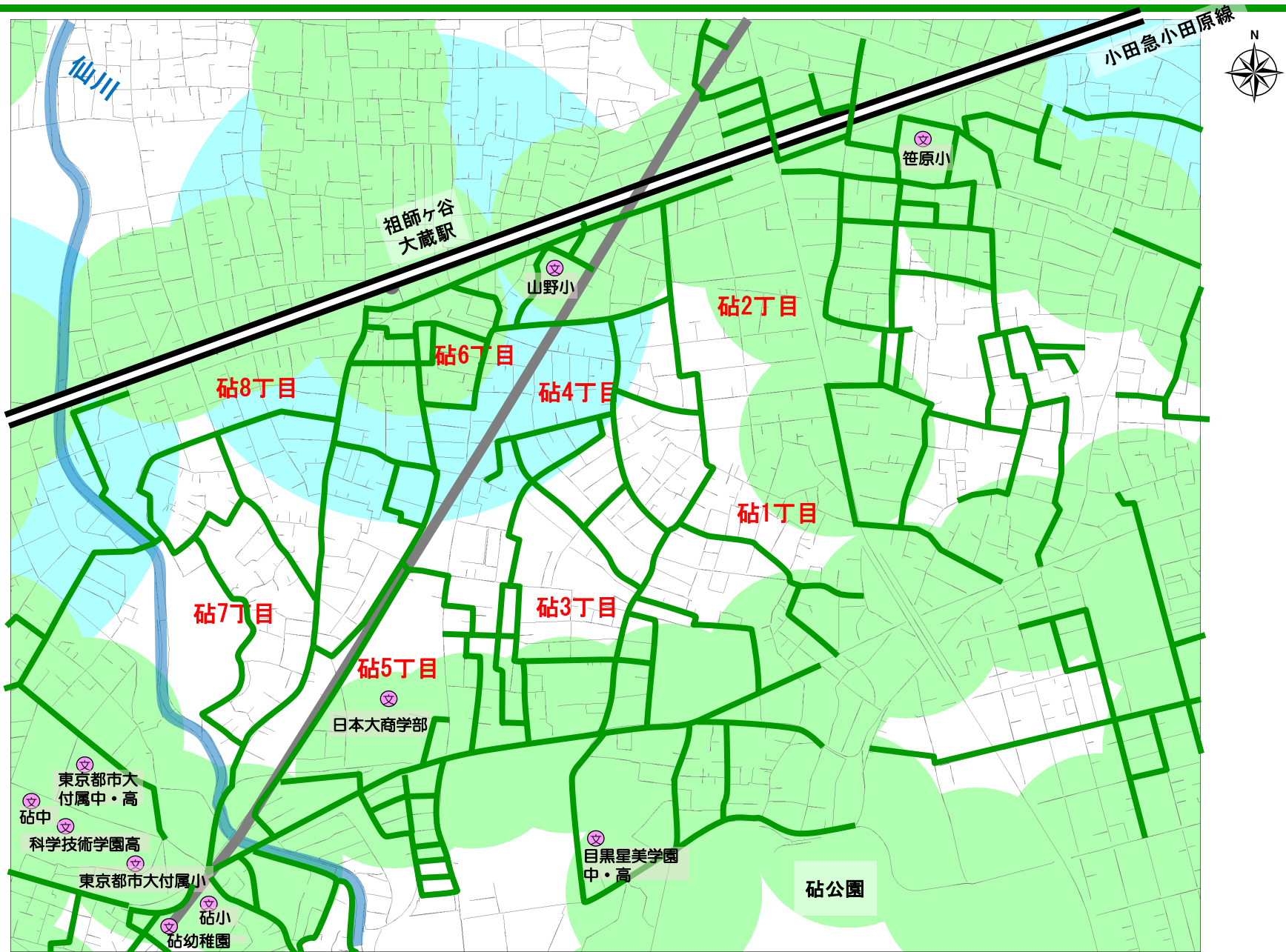
- 運転手不足による人件費向上等があり、平日のみの運行とした場合でも欠損額が生じる見込みである。

課題への対応方針等

①通学路の課題に対する対策案

対策案		課題
1	下校時間(14:30~16:00)を運行時間から外す	<ul style="list-style-type: none"> 運行便数が少なくなる
2	下校時間(14:30~16:00)は地域の方々で見守り活動をする	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方々にとって負担がかかる
3	新ルートの検討	<ul style="list-style-type: none"> 通学路を考慮してルートを選ぶと、ルート延長が伸び、便数が減少する 既存バスルートを長い区間通ることになりやすく、公共交通不便地域の対策にならない
4	午前と午後で運行ルートを変更する	<ul style="list-style-type: none"> 1日の内に運行ルート変わると利用者が困惑する恐れがある

砧地区周辺の通学路指定状況



通学路の安全対策について

【第3回砦公共交通協議会開催（令和元年8月30日）】

協議会のご意見

- ①下校時間（14：30～16：00）を運行時間から外す
⇒公共交通不便地域を通るルートにもなっていることもあり、これまで地域で積み上げてきたルートで進めていくのが良い
始発を早めて少しでも便数を確保する
運行経費等を鑑みて運行時間を長くとり便数を確保する
- ②下校時間（14：30～16：00）に地域に方々の見守り活動
⇒毎日の見守り活動は負担が大きく、対応は難しい
- ③新ルートを検討する
⇒距離が長くなり、運行便数が減少するのでは需要が見込めないのでは
公共交通不便地域を通らないと対策になっていない
- ④午前、午後と運行ルートを変更する
⇒利用者の困惑が生じ、使い勝手が悪いと思われる

②運行収支の課題に対する対策案

- 運行計画の見直し（運行日数、運行本数等）
→運行日数が多いほど、運行欠損額が増加するため、見直しをする
- 区の支援方法等の整理

課題に対する対応方針

- ①通学路の安全対策の方向性
→下校時間帯を運行時間から外す

- ②運行欠損額を抑えるための方向性
→運行日数を週6日から週5日に減らす